

大学病院勤務医のRSNA2022 Virtual Meeting報告

名古屋大学大学院医学系研究科 革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座 特任助教

伊藤倫太郎 | RSNA参加④回



RSNA2022Trend Chacer

1. COVID-19関連

今回のRSNAではCOVID-19の検出、重症度評価もいくつか発表がありました。肺炎後の変化について多くの発表がされていたと思います。脳における変化、肝臓における変化、心臓への影響、肺機能障害などの報告がされていました。世界規模で同時期に多数の感染が発生しているためこのような合併症について検討を行うことに臨床的な意義が高いのだと思います。

一方、ワクチン関連として腋窩リンパ節の腫大とその臨床的影響についての報告も2つ見られました。関西医科の丸山先生のPETに関する検討（R5B-SPIN-3）、ジョンズホプキンスのDerek L. Nguyen先生が発表した乳房MRIにおける検討（S5-SSBR02-4）です。実際の臨床現場でのワクチンの影響について一定の解答を示しており、とても有意義な発表であったと思います。

2. AI関連

乳房マンモグラフィにおける研究が多数見られました。多くは既製品の精度検証、読影時間検証でした。これらを勘案すると放射線医の負荷軽減のためにAIを補助的に使用するようになっていくかもしれません。



My Favorite機器

シーメンス（図1）やキヤノン（図2）のフォトンカウンティングCTです。シーメンスの臨床機に関しては日本すでに稼働しています。現在のCTのトレンドは間違いなくフォトンカウンティング

CTであり、この流れは引き続き続くと思われます。既存のCTより膨大なデータが得られるので、データのハンドリングについてはよく考える必要があります。RAWデータをどこで、だれが、どのように操作してデータを活用するかという問題についてはいままだ明確な解答が出ていないと思います。今後の展開に期待しています。



図1 シーメンスのフォトンカウンティングCTの臨床機